

現代中国語における使役構文の意味と論理構造

— その二 「V得構文」 —

温 琳

0. はじめに

中国語の「V得構文」はその構造と意味が複雑であるため、古くから関心が寄せられている。「V得構文」の表す意味について、「使役」を表すと指摘している先行研究もあれば、「使役」の一步前である「因果関係」を表すと記述している先行研究もある。また、「V得構文」が「使役」を表すと明言している先行研究のなかでも、大多数の「V得構文」は「使役」を表すが、「使役」ではない意味を表す「V得構文」も少ないながら存在するとしているものもある。

本稿では形式意味論の立場から、現代中国語における「V得構文」に論理式を与えることによって、その論理構造を明らかにし、それに意味解釈を与えることにする。それによって、現代中国語の「V得構文」が「使役」を表すことを立証する。ここでは実例を分析することによって仮説を立証する方法を取るが、具体的には、まず「V得構文」に対して仮説を提起し、次にその仮説を用いて収集した例文を分析、説明することによって仮説の正しさを証明するという方法である。以下先行研究の紹介に続いて、「V得構文」を考察していくことにする。

1. 先行研究

1.1 王力（1943）による「V得構文」に対する研究

王力氏は「V 得構文」を「述語を主語とする」「遞系式」と称した。例えば、“他走得很快”の文においては、“走”が「初系」であり、“很慢”が「次系」である。“走”は“他”の述語である一方、“很慢”の主語でもあるとしている。彼は「次系」は文の中心であると指摘したものの、「使役」については言及していない。

1.2 李臨定（1963）による「V得構文」に対する研究

李臨定氏は1963年に発表した「帶“得”字的补语句」という論文の中で「V得構文」の持つ「使役」の意味について論じた。「構造上の意味から見れば、動補構造はもともと「…のようにさせる」という意味を持っているため、「得」を伴う動補構造も同じように「…のようにさせる」という意味を表す。“哭红了眼睛”も“哭得眼睛通红的”も結局「泣く」ことによって「目を赤くさせた」のである」と述べている。

1.3 趙元任（1979）による「V得構文」に対する研究

趙元任氏は「“得”は“在”と“到”の混合物であり、口頭語においては“在”と“到”と比べて、“得”の使用率が断然高い。“得”を用いて程度（extent）を表すことができる。“得”の後ろには様々な構造を用いることができ、主語述語構造もそのうちの一つである。」と述べている。「使役」を表すか否かに関する記述は見あたらない。

1.4 繆錦安 (1990) による「V得構文」に対する研究

繆錦安氏は「V 得構文」において主述構造が補語となる一類の文を「複
雑式補語之第一式」と称し、このような補語は意味上被使役者及び被使役
者がさせられる動作或いは状態を表わす。「動作がある程度まで進行され
ることによって別の動作主がもう一つの動作を始めるか、或いは被記述者
がそれによってある状態に陥るかに焦点がある」としている。以上の記述
は事実上一部の「V 得構文」が「使役」の意味を表すと述べていることにな
る。

1.5 範曉 (2000) による「V得構文」に対する研究

範曉氏は「V 得構文」を使役を表わす構文の中に含めた。そして「全
ての「V 得構文」が使役構文とは限らない。使役の意味を表す文だけが「使
役 V 得構文」である」と記述している。

1.6 範曉・張猶峰 (2001) による「V得構文」に対する研究

範曉氏・張猶峰氏は「V 得構文」の基本的な意味関係は「使役」と「付随」
の二つあるが、「使役」関係が大多数を占めていると述べている。

「使役」関係については「第一の動詞核構造を原因に第二の動詞核構造
の出現をもたらす、すなわちある動作或いは性状を表わす第一の動詞核構
造があるものにある種の変化を起させるか、或いはある種の状態を生じさ
せ、第二の動詞核を出現させるのである」と記述している。

「付随」関係については、「第二の動詞核構造が第一の動詞核構造の出現
に伴って現れる、つまり第一の動詞核構造が第二の動詞核構造の出現の原
因とならない。文における第二の動詞核構造の主な役割は文の主語が表す
物事、或いは V が表す動作或いは性状に対してその程度を描写することで

あり、第一の動詞核構造と第二の動詞核構造の間には因果関係はなく、あるのは描写的付随関係のみである」と述べている。そして、付随関係の用例として

“鴻漸急得坐立不安”と“她已经刷得满嘴牙膏沫了”を挙げている。「“鴻漸急得坐立不安”の文において、“坐立不安”が“鴻漸急”の付随状況であり、鴻漸の焦る様子を描写している。“她已经刷得满嘴牙膏沫了”の文において、“满嘴牙膏沫”は“她刷（牙）”の付随状況であって、彼女の歯を磨く様子を描写している」としている。それらの指摘は正しいが、一方“(鴻漸)急”が“鴻漸”に“坐立不安”をさせていることと“她刷（牙）”が“她”に“满嘴牙膏沫”をさせていることの「使役」関係も認めることができる。つまり筆者は範曉氏・張猶峰氏の言っている「付随」を表す「V得構文」も事実上「使役」を表すと考える。

1.7 郭繼懋・王紅旗（2001）による「V得構文」に対する研究

郭繼懋氏と王紅旗氏は因果関係を表わすという角度から「V得構文」を論じた。両氏は認知言語理論を用いて粘合補語（“得”字補語を伴わない）と組合補語（“得”字補語を伴う）の意味における相違を分析した。「組合補語は高レベルの突出的結果を表わし、その結果は偶発性を要するが、一方粘合補語は低レベルの突出的結果を表わし、その結果は規則性を要する。」と述べている。

さらに、郭繼懋氏は主語述語構造を結果補語とする「V得構文」は意味上原因と結果を表わすと述べている。「「V得構文」が表わす内容は一種の感覚過程に属す。一つの出来事がもう一つの出来事を誘発すると感じ取れる現象であり、その役割は「記述する」ことであるから「V得」の前に使用されている動詞が表わす動作は一般的にすでに起こった動作であり、“已经／刚才／马上／这时”など時間を表わす語を「V得」の前に用いることができる。」としている。

1.8 熊仲儒 (2004) による「V得構文」に対する研究

熊仲儒氏は著書《现代汉语中的致使句式》において、“得”について次のように述べている。

中国語の「達成」という意味は文法上の音韻形式を有する場合と有しない場合があるが、もしも音韻形式を用いるならば、“得”になる。

“V 得”の範疇については「フレーズ」であるか、或いはフレーズを構成する「語素」であるか、という二つの考えがある。

“V 得”の文法ポジション、つまり文における位置についても二種類の考えがある。一つは“V 得”は独立した文法ポジションを占めない、つまり“V 得”を一つの単語として扱う考えである。もう一つは“V 得”が独立した文法ポジションを占めるという考えである。それは補文標識 (complementizer) 或いはほかのなにかである。

「V 得構文」に対応する「把構文」があるか否かは、「V 得構文」の「V 得」の後にある補語が文中のどの成分を指示するかによって決まる。「V 得」の後にある補語が動詞を指す場合、対応する「把構文」は存在する。なぜなら、この場合、補語の文法ポジションは CP だからである。例えば、“我找得你们好苦哇。”である。一方、「V 得」の後にある補語が主語を指す場合、対応する「把構文」は存在しない。なぜなら、この場合、補語の文法ポジションは AdvP だからである。例えば、“他哭得肩膀抖动。”である。

「V 得構文」の項 (argument) 要素は「使役者 (Causer)」、「被使役者 (Becommer/Causee)」及び「結果 (Result)」である。それはあらゆる「使役」を表す構文と同じである。その文法構造を示すと、次のようになる。

「V 得構文」:

[CausP Spec[Caus'[Caus][BecP Spec[Bec'[Bec 得][vp[Spec][V]]]]]]

1.9 宛新政 (2005) による「V得構文」に対する研究

宛新政氏は著書《现代汉语致使句研究》において、「V 得構文」の一部が「使

役」を表すと述べている。「使役」を表す「V 得構文」の構造を「N1+V1 得 + (N2+V2)」のように表記している。宛氏は「V 得構文」を“前指 V 得致使句”と“后指 V 得致使句”に分け、両タイプの用例を統語、意味、語用の視点から分析している。最後に、「V 得構文」と関連する「使役」を表す構文との比較研究もしている。

どのような「V 得構文」が「使役」を表すかについては次のように規定している。まず、「V 得」の後には主述フレーズ (N2+V2) が来なければならない。次に、一定の意味条件を満たしていなければならない。「文の主語 (N1) が「V 得」の前の動詞 (V1) と組み合わせあって、主述フレーズを構成する。この主述フレーズは意味上「V 得」の後にある主述フレーズ (N2+V2) を支配するか、或いは影響を与える。つまり、(N1+V1) が使役の原因であり、(N2+V2) がその結果であり、前者が後者の現われることを「させる」のである。」最後に、形式上、「使役」を表す「V 得構文」と「使構文」はある種の変換ができ、その場合、文の意味はほとんど変わらない。

「V 得構文」と「使構文」の相違は統語上にあるだけでなく、もっとも重要な違いは意味特徴及び語用機能の面に現われている。意味の面において、「使構文」の表す「使役」は比較的抽象的であるが、「V 得構文」の表す「使役」は具体性がある。語用の面において、「使構文」は心理的感情や生理的感觉に重点を置いているのに対して、「V 得構文」は使役者の「使役」を受け、被使役者が呈する状態に重点を置いていると言える。

2. 「V得構文」の定義及び分類

2.1 「V得構文」の定義

筆者は「V 得構文」の一部が「使役」を表す¹⁾という説に同意する。しかし、「一部」と言ってもいったい「V 得構文」の中のどの一部を指しているのだろうか。松村 (2005) によると、“得”の後ろが主 (語) 述 (語)

構造の「V 得構文」、つまり「NP + V 得 + NP + VP」構造の「V 得構文」だけが「使役」を表す「V 得構文」である。筆者は松村（2005）の説を参考にここでは形式意味論の枠組みに従い、中国語における「NP + V 得 + NP + VP」構造を有する「V 得構文」に論理的形式を与えることによって、その論理構造を明らかにし、その意味を考える。

2.2 「V得構文」の分類

中国語の「V 得構文」は大別して次の (1)、(2)、(3)、(4) の四つの構造の文に分けることができる。

- (1) 通常の「V 得構文」
- (2) 使役構文中の「V 得構文」
- (3) 処置構文中の「V 得構文」
- (4) 受身構文中の「V 得構文」

従って、本来その四つのタイプの「V 得構文」を本稿の研究対象とするべきである。しかし、二つ目のタイプである (2) 使役構文中の「V 得構文」、三つ目のタイプである (3) 処置構文中の「V 得構文」及び四つ目のタイプの (4) 受身構文中の「V 得構文」を分析するには「使構文」、「把構文」、「被構文」に関する研究が必要であり、本稿の理論だけではそれらを取り扱うことができない。従って、本稿における研究対象は「通常の「V 得構文」のみとする。

通常の「V 得構文」はまた文の構造によってさらに四つのタイプに細分化することができる。それを詳しく示すと次のようになる。

- a. 「V」が単音節或いは二音節形容詞であり、「V 得」の後ろに「使（など）」が現われない「V 得構文」、これを「Va 得構文」と称する。
- b. 「V」が単音節或いは二音節形容詞であり、「V 得」の後ろに「使（など）」が現われる「V 得構文」、これを「Vb 得構文」と称する。
- c. 「V」が単音節或いは二音節動詞であり、「V 得」の後ろに「使（など）」

が現われない「V 得構文」、これを「Vc 得構文」と称する。

- d. 「V」が単音節或いは二音節動詞であり、「V 得」の後ろに「使(など)」が現われる「V 得構文」、これを「Vd 得構文」と称する。

以下上に並べた a、b、c、d の四つのタイプの「V 得構文」を中心に論を展開する。

3. 「V得構文」の論理構造

「V 得構文」全体に意味解釈を与えるためには、その論理構造を構築しなければならない。次の 1 の文を例に「V 得構文」の論理構造を考えてみよう。

1. 风吹得我十分舒服。(宛新政2005:197引用例)

(風が吹いて私をととても気持ち良くさせた。)

分析を分りやすくするためにこの文を簡略化すると、次のようになる。

1-1. 风吹得我舒服。

(風が吹いて私を気持ち良くさせた。)

ここで文 1-1 に含まれている命題内容を列挙してみよう。それは「風が吹く」と「私は気持ちよい」と「風が吹くことが私にさせた」と「風が吹くことが私に私を気持ちよい状態にさせた」という四個の命題内容である。その内、四番目の命題内容である「風が吹くことが私に私を気持ちよい状態にさせた」が「V 得構文」である 1-1 の意味であると考ええる。ここでの目的はすべての「使役」を表す「V 得構文」に共通する規則を抽出することである。「V 得構文」に共通する規則を見つけるために、ここで命題内容「風が吹くことが私に私を気持ちよい状態にさせた」において、文 1-1 に関わる具体的な要素、つまり「個体」と「命題」を除いてみると次のよ

うな意味構造が取り出せる。

1-2. ～ガ, ～ニ, ～コトヲ, サセル。

ここではメタ言語として述語論理を採用し、文 1-2 の論理式を書くと、次のようになる。

1-3. サセル' (～ガ, ～ニ, ～コトヲ)

論理式 1-3 を観察すると、一種の関数を表していることに気付く。筆者はここで一つの仮説を提起したい。それは中国語の「V 得構文」は三項の項を持つ関数であるということである。この仮説をもとに、上記 1-3 は次のように書き換えることができる。

1-4. サセル' (α , β , γ)

ここで 1-4 を中国語を用いて表記すると、次のようになる。

1-5. 得' (α , β , γ)

ここで説明しなければならないのは「得'」という記述方法である。これは中国語の漢字「得」の右上にプライム「'」を付したものである。これは論理式 1-5 において関数の表記に用いられている。現代中国語の形式意味論の研究においては関数表記に使用される記号はすべてローマ字（例えば、De' など語頭のみ大文字のもの）でなければならないが、本稿では便宜的に中国語の漢字を用いることにした。

以上の議論を踏まえて、改めて例文 1-1 を見てみよう。例文 1-1 は「風が吹く」と「私は気持ちよい」と「風が吹くことが私にさせた」と「風が吹くことが私に私を気持ちよい状態にさせた」という四つの命題内容を含

んでいる。従って文 1-1 の述語論理表記は次のようになる。

1-1' 得' {吹' (風), 我, 舒服' (我) }

サセル' (α , β , γ)

サセル' ~ガ ~ニ ~コトヲ

ここでは“吹' (風)”が「風が吹く」の意を、“舒服' (我))”が「私が気持ちよい」の意を、“得' {吹' (風), 我}”が「風が吹くことが私にさせた」の意を、“得' ”関数の値である“得' {吹' (風), 我, 舒服' (我)}”が「風が吹くことが、私に、私が気持ちよいことをさせた」という意味を表す。

ここでの「風が吹くことが私に私が気持ちよいことをさせた」という意味は理解できるが、日常言語としては使えない日本語は「風が吹いて私を気持ちよくさせた」を意味していると考えられる。その結果、上述の議論により得られた文 1-1 の意味、つまり単純命題を合成した意味は文の表す本来の意味、つまり文全体の表す直観的意味と合致することになる。言い換えれば、文の意味はそれを構成する単純命題と個体及びそれら相互の関係により表示されうるといふ我々の分析が適切であるということになる。

以上のような分析方法を用いてあらゆるタイプの「V 得構文」に意味解釈を与えることができれば、我々の理論を立証できることになる。以下各タイプの用例を分析することにより、仮説を検証する。

4. 実例による検証

通常の「V 得構文」は文の構造によってさらに四つのタイプに細分化することができることはすでに前文で明らかにした。それは「Va 得構文」、「Vb 得構文」、「Vc 得構文」及び「Vd 得構文」である。以下順番に検証していく。

4.1 「Va 得構文」

「Va 得構文」にはまた V が単音節形容詞の場合と V が二音節形容詞の場合がある。まず V が単音節形容詞の「Va 得構文」を二例ほど見てみよう。2 と 3 の文がその例である。

2. 有一天晚上, 天气热得连树上的叶子也喘气。(周红2005:336引用例)
(ある晩、天気が木の葉を喘がせるほど暑かった。)(筆者訳)

例文 2 の「使役」と関連する部分を取り出すと、次の 2-1 になる。

2-1. 天气热得叶子也喘气。

(天気が木の葉を喘がせるほど暑かった。)

文 2-1 は「天気が暑い」と「木の葉が喘ぐ」と「天気が暑いことが木の葉にさせた」と「天気が暑いことが、木の葉に、木の葉が喘ぐことをさせた」という四個の命題内容を含んでいる。従って文 2-1 の論理式を書くと次のようになる。

2-1' 得' {热' (天气), 叶子, 喘气' (叶子) }

サセル' ~ガ ~ニ ~コトヲ

ここでは“热' (天气)”が「天気が暑い」の意を、“喘气' (叶子)”が「木の葉が喘ぐ」の意を、“得' {热' (天气), 叶子}”が「天気が暑いことが木の葉にさせる」の意を、“得' ”関数の値である“得' {热' (天气), 叶子, 喘气' (叶子) }”が「天気が暑いことが、木の葉に、木の葉が喘ぐことをさせた」という意味を表している。

ここで「天気が暑いことが、木の葉に、木の葉が喘ぐことをさせた」という表現をより自然な日本語で記述すると、「天気が木の葉を喘がせるほど暑かった」という表現となる。これが文 2-1 の表す意味である。

3. 对于他们这两个越狱犯来说, 这夜间的大地是这样寒冷, 冷得人的心灵都在发颤。(周红2005:336引用例)

(彼ら二人の脱獄犯にとって夜の大地はことのほか冷たく、人の心さえ震えさせるほど寒かった。)(筆者訳)

例文5の「使役」にかかわる部分は次の3-1になる。

3-1. 大地冷得心灵都在发颤。

(大地は心を震えさせるほど寒かった。)

文3-1は「大地が寒い」と「心が震える」と「大地が寒いことが心にさせた」と「大地が寒いことが、心に、心が震えることをさせた」という四つの命題内容を含んでいる。従って文3-1の論理式は次のようになる。

3-1' 得' {冷' (大地), 心灵, 发颤' (心灵) }

サセル' ～ガ ～ニ ～コトヲ

ここで“冷' (大地)”が「大地が寒い」の意を、“发颤' (心灵)”が「心が震える」の意を、“得' {冷' (大地), 心灵}”が「大地が寒いことが心にさせた」の意を、“得' {冷' (大地), 心灵, 发颤' (心灵) }”が「大地が寒いことが、心に、心が震えることをさせた」という意味を表している。

ここでは「大地が寒いことが、心に、心が震えることをさせた」という日常言語としては不自然な日本語の表現と「大地は心を震えさせるほど寒かった」という自然な日本語の表現が意味上等値であると考ええる。つまり文3-1が表している意味は「大地は心を震えさせるほど寒かった」である。

次にVが二音節形容詞の「Va得構文」を一つ見てみよう。

4. 这是海最大的收获。这种收获，张狂得海几个晚上都没有睡好觉。（宛新政2005:216引用例）

（これが海の最大の収穫だった。この収穫は海を幾晩も眠れないほどかって気ままにさせた。）（筆者訳）

4の文から「使役」の分析に不用な部分を取り除くと、次の4-1になる。

4-1. 收获张狂得海没有睡好觉。

（収穫は海を十分には眠れないほどかって気ままにさせた。）

文4-1は「収穫が海をかって気ままにさせた」と「海が十分には眠れない」と「収穫が海をかって気ままにさせたことが海にさせた」と「収穫が海をかって気ままにさせたことが、海に、海が十分には眠らないことをさせた」という四つの命題内容を含んでいる。従って、文4-1の論理式は次のようになる。

4-1' 得' [张狂' (收获, 海), 海, {睡觉' (海) & ~有' (睡觉, 好) }]

サセル' ~ガ ~ニ ~コトヲ

ここでは“张狂' (收获, 海)”が「収穫が海をかって気ままにさせた」の意を、“{睡觉' (海) & ~有' (睡觉, 好) }”が「海が十分には眠れない」の意を、“得' [张狂' (收获, 海), 海]”が「収穫が海をかって気ままにさせたことが海にさせた」の意を、“得' ”関数の値である“得' [张狂' (收获, 海), 海, {睡觉' (海) & ~有' (睡觉, 好) }]”が「収穫が海をかって気ままにさせたことが、海に、海が十分には眠らないことをさせた」という意味を表している。

ここで「収穫が海をかって気ままにさせたことが、海に、海が十分には眠らないことをさせた」という表現から「収穫は海を十分には眠れないほ

どかって気ままにさせた」という意味が読み取れる。これが文 4-1 の表す意味である。

以上例 2 から例 4 まで Va 得構文について論じた。さらに、例 2 から例 4 までの分析により、“得”は「状態補語」を明示する役割をしているだけではなく、「使役」の意味を表す役割も果たしていることがわかる。この二つの役割を含む形式を仮に「De'」とすると、この「De'」は次に示すように二種の意味を表すことになる。

$$\text{De'} \left\{ \begin{array}{l} \text{得'} \text{ (状態補語)} \\ \text{让'} \text{ (使、叫、令など)} \end{array} \right.$$

しかし、“让' (使、叫、令など)”が不可視的要素である現段階ではこれは理論上の産物にすぎない。この理論上の産物が存在する理由を次の Vb 得構文を分析することにより証明してみることにする。

4.2 「Vb得構文」

「Vb 得構文」とは「V」が単音節或いは二音節の形容詞であり、「V 得」の後ろに「使 (など)」が現われる「V 得構文」のことを指す。例を見てみよう。

5. 我记得那天天气很好, 天空蓝得让我不敢看它。(周红2005:338引用例)
 (その日は天気がとても良く、空は私に見ようとさせない (まぶしい) ほど青かったと記憶している。)(筆者訳)

5 の文の直接「使役」と関連する部分を取り出すと、次の 5-1 になる。

5-1. 天空蓝得让我不敢看它。

(空は私に見ようとさせないほど青かった。)

文 5-1 に含まれている命題内容を見てみよう。「空が青い」と「私が空を見られない」「空が青いことが私にさせた」と「空が青いことが、私に、私が空を見られないことをさせる」と「空が青いことが、私に、空が青いことが私に私が空を見られないことをさせることを、させた」という五つである。従って文 5-1 の論理式を書くと次のようになる。

5-1' 得' { 藍' (天空), 我, 让' [藍' (天空), 我, ~敢' { 我, 看' (我, 天空) }] }

	サセル'	~ガ	~ニ	~コトラ
サセル'	~ガ	~ニ		~コトラ

ここで“藍' (天空)”が「空が青い」の意を、“~敢' { 我, 看' (我, 天空) }”が「私が空を見られない」の意を、“让' [藍' (天空), 我, ~敢' { 我, 看' (我, 天空) }]”が「空が青いことが、私に、私が空を見られないことをさせる」の意を、“得' { 藍' (天空), 我, 让' [藍' (天空), 我, ~敢' { 我, 看' (我, 天空) }] }”が「空が青いことが、私に、空が青いことが私に私が空を見られないことをさせることを、させた」という意味を表している。

ここで気がつくことは 1 から 4 までの例文と異なり、例文 5 においては「V 得」の後に“让”が用いられていることである。中国語の“让 (使、叫、令など)”は「使役」を表す標識である。この“让”の存在によって「V 得構文」である例文 5 の「使役」の意味が明示される。この“让”が現われることによって筆者の“得”に対する仮説が成立することが証明される。

「V a 得構文」の部分において、すでに“得”が「状態補語」を明示する働きをしているだけではなく、「使役」の意味を表す役割も果たしていると仮定したが、実際の用例には让 (使、叫、令など)”が現われていな

いため、意味上の仮説にすぎなかった。しかし、例文5においては“得”と“让”が両方現われている。我々の仮設が意味上だけでなく、統語的にも証明されたことになる。宛新政は『現代漢語致使句研究』で「「V得」の後ろに“使”“让”“叫”“令”等が現われ、それによって「V得構文」の深層に含まれている使役関係が浮き彫りにされた」²⁾と記述しているが、これは筆者の分析を支持している。

しかし、中国語は「使役」を表すのになぜ“得”と“让（使、叫、令など）”を両方用いたのか。“得”も“让（使、叫、令など）”も「使役」を表しているから、本来どちらか片方を用いれば良いのではないか。さらに、同じ「使役」を表す“得”と“让（使、叫、令など）”は何か異なるところがあるか。もしもあるならば、その違いはどこにあるか。この二つの問題を解決するには根本から“得”と“让（使、叫、令など）”を見直さなければならない。以下詳しく見てみよう。

“让”が「使役」を表すということはすでに検証済み³⁾であるが、“得”が本当に「使役」の意味を持っているか否かをここで検証する。そのために、まず例文5から「使役」“让”を省くと、どのような意味の文になるかを見てみよう。その文をAとする。

A. 天空蓝得我不敢看它。

文Aを観察してみると、文Aは“天空蓝（空が青い）”、“我不敢看它（私は見られない）”及び“得”の三つの部分に分けられる。“天空蓝（空が青い）”と“我不敢看它（私は見られない）”が“得”によって結び付けられている。“天空蓝（空が青い）”は空の青いという「性質」を表している。“我不敢看它（私は見られない）”は「私は空を見るのを恐れている」という私の「心理状態」を表している。わかりやすく示すと、次のようになる。

A' 蓝' (天空)	得	~敢' {我, 看' (我, 天空) }
[性質]		[(心理) 状態]

つまり、文 A においては“得”が“天空蓝 (空が青い)”と“我不敢看它 (私は見られない)”という命題表現を結びつけ、それは意味上は「性質」と「状態」の結びつきを示している。これを結論 A とする。

今度は例文 5 から「使役」を表す“得”と“让”を両方省いてどのような文になるかを見てみよう。次の文 B、文 C 及び文 D のような文ができる。

B. 天空蓝。我不敢看它。

C. * 我不敢看它。天空蓝。

D. 天空蓝，我不敢看它。

まず文 B を見てみよう。この文は“得让”の代わりに句点「。」を用いて“天空蓝”と“我不敢看它”を結び付けている。文 B と例文 5 を比べてみるとどのように異なるかというと、文 A においては“它”が“天空”を指示する。ところが文 B においては“它”は必ずしも“天空”を指示するわけではない。

次に文 C を見てみよう。この文は“得让”の代わりに句点「。」を用いて“天空蓝”と“我不敢看它”を結び付け、さらに“天空蓝”と“我不敢看它”の順番を逆にしている、つまり“我不敢看它”が前に、“天空蓝”が後ろにある。この文は成立しない。なぜなら、文 C においては前にある“它”の指示対象が不明であるからである。

最後に文 D を見てみよう。この文は“得让”の代わりにコンマ「，」を用いて“天空蓝”と“我不敢看它”を結び付けている。文 C は常時成立する文である。なぜなら文中にある“它”が“天空”をはっきり指示している、つまり“它”と“天空”が同じことが文 D だけでわかるからである。そこで文 D を用いて“得”と“让”の関係を詳しく見てみよう。

“天空蓝 (空が青い)”は空の青いという「性質」を表している。“我不敢看它 (私は見られない)”は「私は空を見るのを恐れている」という私の「心理状態」を表している。これらの意味情報は文 D から読み取れるため、それぞれ“天空蓝 (空が青い)”と“我不敢看它 (私は見られない)”の本質的意味、つまり「意味論的意味」であると言える。

さらに、文 D において、“我不敢看它 (私は見られない)”となる理由は“天空蓝 (空が青い)”であることがわかる。つまり、“天空蓝 (空が青い)”は“我

不敢看它（私は見られない）”の「原因」であり、“我不敢看它（私は見られない）”は“天空蓝（空が青い）”の「結果」である。これは二個の命題表現の結びつきから産み出された「意味」なので、これを派生的意味、つまり「統語論的意味」と考える。“天空蓝（空が青い）”と“我不敢看它（私は見られない）”との間に存在する二種類の関係を次のD'に示しておく。

D' 蓝'（天空）	～敢' {我, 看'（我, 天空）}	
〔性質〕	〔(心理) 状態〕	本質的意味＝意味論的意味
〔原因〕	〔結果〕	派生的意味＝統語論的意味

以上の議論を整理すると、コンマ（,）は意味上では「性質」と「状態」の関係を表すが、統語上では「原因」と「結果」の関係を表していると言える。その関係の可能性は二通りある。次の（1）と（2）である。

- （1）〔原因〕が〔結果〕ヲ モタラス 把構文
 （2）〔原因〕が〔結果〕ニ サセル 使構文

まず可能性（1）を見てみよう。可能性（1）は「〔原因〕が〔結果〕をもたらす」であり、それは中国語の「把構文」になる。従って、もしも可能性（1）が真であれば、“把”を用いて“天空蓝（空が青い）”と“我不敢看它（私は見られない）”を次の文（1-1）のように結び付けることができるはずである。

（1-1）＊ 天空蓝把我不敢看它。

しかし、文（1-1）はあきらかに非文であるため、それによって可能性（1）を排除することができる。

次に可能性（2）を見てみよう。可能性（2）は「〔原因〕が〔結果〕にさせる」であり、中国語の「使構文」にあたる。従って、もしも可能性（2）が真であれば、“使（让、叫、令など）”を用いて“天空蓝（空が青い）”と“我

不敢看它（私は見られない）”を次の文（2-1）のように結び付けることができるはずである。

（2-1） 天空蓝，让我不敢看它。

文（2-1）は適切な文である。従って、可能性（2）が立証されたことになる。つまり、コンマ（,）は意味上では「性質」と「状態」の関係を表すが、統語上では「原因」と「結果」の「使役」関係を表していると言えることになる。これを結論Dとする。

ここで結論Aに戻ってみよう。“得”は「性質」と「状態」の関係を表した。従って文Dのコンマ（,）と同じ役割をしている。実際、文Aは文Dの中のコンマ（,）が“得”によって取って代わられた文である。つまり、“得”には本来「使役」という意味は存在せず、コンマ（,）と同じ役割を果たしているのである。さらに、文Dが示している通り、コンマ（,）は統語上では「原因」と「結果」の「使役」関係を表しているため、コンマ（,）と同じ役割を果たす“得”も同じように統語上では「使役」関係を表していると言える。言い換えれば、“得”は意味的意味を持たず、統語的意味だけ持っているということである。これが“得”の本質である。それを次のEのように表記する。

E. “得”の本質： $\left\{ \begin{array}{ll} \text{意味的意味} & [\text{ゼロ}] \\ \text{統語的意味} & [\text{使役}] \end{array} \right.$

李臨定氏も自分の著書の中で“得”が「使役」を表すと述べているが、それも“得”の統語的意味を指していると考えられる。⁴⁾

“得”については上の分析であきらかになったが、同じ「使役」を表す“让”と比べて見よう。本稿では、“让”は意味的意味も「使役」であり、統語的意味も「使役」である。次のFのように示すことができる。

F. “让”の本質：

{	意味的意味	[使役]
	統語的意味	[使役]

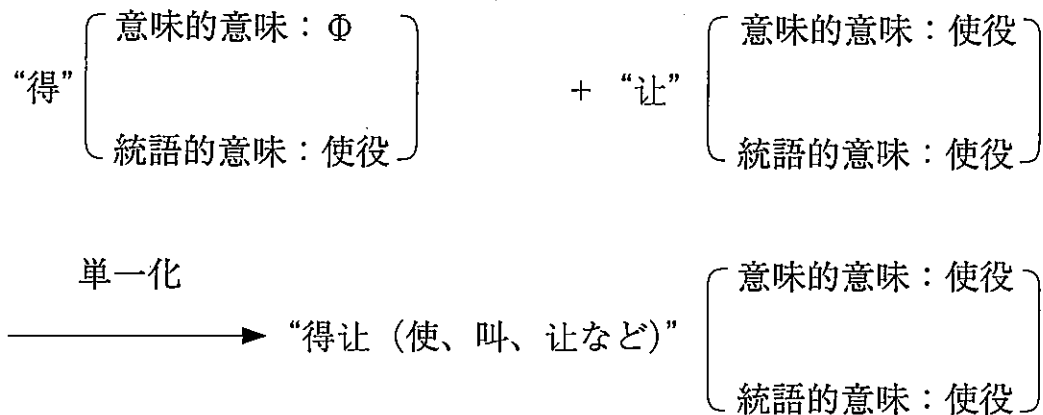
EとFを比べてみると、“得”と“让”の違いがはっきりわかる。それは“让”が意味的意味も統語的意味も「使役」であるのに対して“得”が意味的意味を持たず、統語的意味だけが「使役」であるということである。

ここで一つの仮説を提案したい。それは本来中国語においてはすべての「使役」を表す構文は“得”と“让（使、叫、令など）”が結合したものの、つまり「DE・RANG」⁵⁾という基本形式を持つと仮定するのである。それがあある場合には「DE」として現れ、ある場合には「RANG (SHI,JIAO,LING,ect.)」として現れ、さらにある場合には「DE・RANG」として現れると解するのである。ある場合と言ったが、ある場合はどのような場合かと疑問を抱かれるかもしれない。ここで説明しておく。使役性が低い場合には、「DE・RANG」構造から「DE」だけが現れる。使役性が高い場合には完全な「DE・RANG」構造を用いる。「DE・RANG」構造から「DE・RANG」をとると、コンマ(,)になり、「使役」の意味が分かりにくくなるため、通常“得”を用いる傾向がある。中国の研究者もそれに気付いていると考えられる。中国の文法書には「「使役」を表す場合、“得”を用いるより“让（使、叫、令など）”を用いたほうが効果的」という記述が度々現れている。周紅氏が「現代漢語致使範疇研究」の中で「「得」構文も「使（など）」構文も「使役」を表すことができるが、表せる使役性の程度が異なる。「得」構文より「使（など）」構文がより強い、はっきりとした「使役」を表す。「得」構文において、「使（让、叫、令など）」が補われる。⁶⁾」と記述している。本稿では“得”と“让（使、叫、令など）”の両方が用いられた文を記述している。それらの例文においても「DE・RANG」構造を用いることによって「使役」がより強く表されていることがわかる。

「DE・RANG」構造を分かりやすくするために、ここでその「単一化」⁷⁾

による計算方法を示しておく。次の G である。

G:



引き続き同じタイプの用例を二例ほど見てよう。

6. 那个车站小得让我心疼。(周红2005:337引用例)

(そのバス停は私に心を痛ませるほど小さかった。)(筆者訳)

例文6は「駅が小さい」と「私が心が痛む」と「駅が小さいことが、私に、私が心が痛むことを(させる)」と「駅が小さいことが私にさせた」と「駅が小さいことが、私に、駅が小さいことが私に私が心が痛むことを(させる)ことを、させた」という五個の命題内容を含んでいる。丸括弧内の「させる」は“让”の意味を表している。従って例文6の論理式は次のようになる。

6-1' 得' [小' (车站), 我, 让' {小' (车站), 我, 心疼' (我)}]

$$\begin{array}{ccccccc}
 & & \text{サセル'} & \sim \text{ガ} & & \sim \text{ニ} & \sim \text{コトラ} \\
 \text{サセル'} & \sim \text{ガ} & & & \sim \text{ニ} & & \sim \text{コトラ}
 \end{array}$$

ここで“小' (车站)”が「駅が小さい」の意を、“心疼' (我)”が「私が心が痛む」の意を、“让' {小' (车站), 我, 心疼' (我)}”が「駅が小

さいことが、私に、私が心が痛むことを（させる）」の意を、“得’ [小’ (车站), 我” が「駅が小さいことが私にさせた」の意を、“得’ ” 関数の値である “得’ [小’ (车站), 我, 让’ {小’ (车站), 我, 心疼’ (我) }]” が「駅が小さいことが、私に、駅が小さいことが私に私が心が痛むことを（させる）ことを、させた」という意味を表している。

7. 夜、寂靜得使人以为世界已经离开了自己。（周红2005:337引用例）

（夜は世界がもう自分から離れていったと感じさせるほど静かだった。）（筆者訳）

例文7の直接「使役」と関わる部分は次の7-1になる。

7-1. 夜寂靜得使人以为世界离开了自己。

（夜は世界が自分から離れていったと感じさせるほど静かだった。）

文7-1は「夜は静かである」と「人が世界を感じる」と「世界が自分から離れていく」と「人が世界が自分から離れていくと感じる」と「夜が静かなことが、人に、人が世界が自分から離れていくと感じることを（させる）」と「夜が静かなことが人にさせた」と「夜が静かなことが、人に、夜が静かなことが人に人が世界が自分から離れていくと感じることを（させる）ことを、させた」という七つの命題内容を含んでいる。丸括弧内の「させる」は“使”の意味を表している。従って文7-1の論理式を書くと、次のようになる。

7-1’ 得’ [寂靜’ (夜), 人, 使’ {寂靜’ (夜), 人, 以为’ (人, 世界) & 离开’ (世界, 自己) }]

	サセル’	～ガ	～ニ	～コトラ
サセル’	～ガ	～ニ		～コトラ

ここで“寂靜’（夜）”が「夜が静かだ」の意を、“以为’（人，世界）”が「人が世界を感じる」の意を、“离开’（世界，自己）”が「世界が自分から離れていく」の意を、“以为’（人，世界）& 离开’（世界，自己）”が「人が世界が自分から離れていくと感じる」の意を、“使’{寂靜’（夜），人，以为’（人，世界）& 离开’（世界，自己）}”が「夜が静かなことが、人に、人が世界が自分から離れていくと感じることを（させる）」の意を、“得’{寂靜’（夜），人}”が「夜が静かなことが人にさせた」の意を、“得’”関数の値である“得’[寂靜’（夜），人，使’{寂靜’（夜），人，以为’（人，世界）& 离开’（世界，自己）}]”が「夜が静かなことが、人に、夜が静かなことが人に人が世界が自分から離れていくと感じることを（させる）ことを、させた」という意味を表している。

ここでは“得’”関数の第三項にある“使’”関数の第三項に関数“以为’（人，世界）”の値と関数“离开’（世界，自己）”の値が連言（&）で結びつけられている。連言は集合の「交わり」を表し、命題論理において「&」という記号を用いて表記する。従って、この「&」によって結びつけられている関数“以为’（人，世界）”の値と関数“离开’（世界，自己）”の値は二つの事態が同時に成立していることを表している。なぜなら、文7-1では「世界が自分から離れていく」は「人が世界を感じる」「内容」であり、この文においては両者が共存し、同時に成立しなければならないからである。

ここで「夜が静かなことが、人に、夜が静かなことが人に人が世界が自分から離れていくと感じることをさせることを、させた」という日本語の表現をより自然かつ簡潔に書き換えると「夜は世界が自分から離れていったと感じさせるほど静かだった」という表現になる。これが文7-1の表す意味である。

5、6、7の例では「Vb 得構文」について論じた。そのうち、5と6の文はVが単音節形容詞の「Vb 得構文」であり、7の文はVが二音節形容詞の「Vb 得構文」である。

4.3 「Vc得構文」

ここから「Vc得構文」を見てみよう。すでに本稿の始めに述べた通り、「Vc得構文」は「V」が単音節或いは二音節の動詞であり、「V得」の後ろには「使」(など)が現われない「V得構文」である。用例を見てみよう。

8. 我直瞪瞪地盯着太阳, 强烈的光线刺得我眼冒泪花。(宛新政2005:204 引用例)

(私がじっと太陽を見つめると、その強烈な光が(私にあたって)涙があふれんばかりだった。)(筆者訳)

8の文の「使役」と関連ある部分は次のようになる。

8-1. 光线刺得我眼冒泪花。

(光が私の眼にあたって涙があふれんばかりだった。)

文8-1は「光が私を刺した」と「目から涙が溢れる」と「光が私を刺したことが私にさせた」と「光が私を刺したことが、私に、目から涙が溢れることを、させた」という四個の命題内容を含んでいる。従って文8-1の述語論理表記は次のようになる。

8-1' 得' {刺' (光线, 我), 我, 冒' (眼, 泪花) }

サセル' ~ガ ~ニ ~コトヲ

ここで“刺”(光线, 我)”が「光が私を刺した」の意を、“冒”(眼, 泪花)”が「目から涙が溢れる」の意を、“得' {刺' (光线, 我), 我”が「光が私を刺したことが私にさせた」の意を、“得' ”関数の値である“得' {刺' (光

线, 我), 我, 冒' (眼, 泪花) }” が「光が私を刺したことが、私に、目から涙が溢れることをさせた」という意味を表している。

ここで「光が私を刺したことが、私に、目から涙が溢れることをさせた」という日常言語としては不自然な文をより自然な日本語にすると、「光が私に当たって（目から）涙があふれんばかりだった」という文になる。これが文 8-1 の表す意味である。

9. 汽車顛动厉害, 震得脸上粉粒一颗颗参加太阳光里飞舞的灰尘。(宛新政2005:204引用例)

(車の激しい揺れがファンデーションの一粒一粒を太陽光の中で舞う埃と混ぜさせた。)(筆者訳)

9 の文を議論に不用な部分を除くと、次の 9-1 になる。

9-1. 顛动震得粉粒参加灰尘。

(揺れがファンデーションを埃と混ぜさせた。)

文 9-1 は「揺れがファンデーションを震わした」と「ファンデーションが埃と混じった」と「揺れがファンデーションを震わしたことがファンデーションにさせた」と「揺れがファンデーションを震わしたことが、ファンデーションに、ファンデーションが埃と混じることをさせた」という四つの命題内容を含んでいる。従って文 9-1 を述語論理表記してみると次のようになる。

9-1' 得' {震' (顛动, 粉粒), 粉粒, 参加' (粉粒, 灰尘)}

サセル' ~ガ ~ニ ~コトラ

ここで“震' (顛动, 粉粒)” が「揺れがファンデーションを震わした」

の意を、“参加’（粉粒，灰尘）”が「ファンデーションが埃と混じった」の意を、“得’ {震’（顛動，粉粒），粉粒”が「揺れがファンデーションを震わしたことがファンデーションにさせた」の意を、“得’ {震’（顛動，粉粒），粉粒，参加’（粉粒，灰尘）}”が「揺れがファンデーションを震わしたことが、ファンデーションに、ファンデーションが埃と混じることをさせた」という意味を表している。

ここで「揺れがファンデーションを震わしたことが、ファンデーションに、ファンデーションが埃と混じることをさせた」を自然な日本語で言い換えると、「揺れがファンデーションを埃に紛れ込ませた」となる。これが文 9-1 の表す意味である。

10. 年轻人的言语十分激烈, 逼迫得倪吾诚无法遁逃。(王蒙《活动变人形》)
(若者たちの言葉は鋭く、倪吾誠に逃げ場をなくさせた。)(筆者訳)

文 10 の直接「使役」と関連のある部分を取り出すと、次の 10-1 になる。

10-1. 言语逼迫得倪吾诚无法遁逃。

(言葉が倪吾誠に逃げ場をなくさせた。)

文 10-1 に含まれている命題内容を書いてみると次の四個になる。「言葉が倪吾誠に責めた」と「倪吾誠に逃げ場をなくす」と「言葉が倪吾誠に責めたことが倪吾誠にさせた」と「言葉が倪吾誠に責めたことが、倪吾誠に、倪吾誠に逃げ場をなくすことをさせた」である。従って文 10-1 の論理式を記述すると次のようになる。

10-1' 得' {逼迫' (言语, 倪吾诚), 倪吾诚, 无法遁逃' (倪吾诚) }

サセル'

～ガ

～ニ

～コトラ

ここで、“逼迫’（言語，倪吾誠）”が「言葉が倪吾誠を責めた」の意を、“无法遁逃’（倪吾誠）”が「倪吾誠が逃げ場をなくす」の意を、“得’ {逼迫’（言語，倪吾誠），倪吾誠”が「言葉が倪吾誠を責めたことが倪吾誠にさせた」の意を、“得’”関数の値である“得’ {逼迫’（言語，倪吾誠），倪吾誠，无法遁逃’（倪吾誠）}”が「言葉が倪吾誠を責めたことが、倪吾誠に、倪吾誠が逃げ場をなくすことをさせた」という意味を表している。これが文10-1が表す意味である。以上「Vc得構文」について論じた。

4.4 「Vd得構文」

最後に「Vd得構文」について考えてみる。用例を見てみよう。

11. 追得令华蓉对他生出一点好感时，他又立刻退了回去，天天等着华蓉来拍他的马屁，好让他在寝室里跟人夸耀。（宛新政2005:207引用例）

（華蓉を振り向かせようとしていた時は大した意気込みだった。華蓉がどこに行くにも彼は関心を寄せていたのだが、華蓉に好感を持たせたたん、今度はすぐに引き、毎日寝室でこれみよがしに華蓉が彼の機嫌を取りに来るのを待った。）（筆者訳）

文11の「使役」の分析に不用な部分を取り除くと、次のようになる。

11-1. 他追得令华蓉生出好感。

（彼は華蓉に好感を持たせるほど華蓉を振り向かせようとした。）

文11-1では、「V」は単音節の動詞“追”であり、「V得」の後に“令”が用いられている。

文11-1は「彼が華蓉を振り向かせようとする」と「華蓉が好感を持つ」と「彼が華蓉を振り向かせようとする」ことが、華蓉に、華蓉が好感を持つ

ことを（させる）」と「彼が華蓉を振り向かせようとする事が華蓉にさせた」と「彼が華蓉を振り向かせようとする事が、華蓉に、彼が華蓉を振り向かせようとする事が華蓉に華蓉が好感を持つことを（させる）ことを、させた」という五個の命題内容を含んでいる。丸括弧内の「させる」は“令”の意味を表している。従って文 11-1 の論理表記は次のようになる。

11-1' 得' [追' (他, 华蓉), 华蓉, 令' { 追' (他, 华蓉), 华蓉, 生' (华蓉, 好感) }]

	サセル'	～ガ	～ニ	～コトラ
サセル'	～ガ	～ニ		～コトラ

ここで“追' (他, 华蓉)”が「彼が華蓉を振り向かせようとする」の意を、“生' (华蓉, 好感)”が「華蓉が好感を持つ」の意を、“令' { 追' (他, 华蓉), 华蓉, 生' (华蓉, 好感) }”が「彼が華蓉を振り向かせようとする事が、華蓉に、華蓉が好感を持つことを（させる）」の意を、“得' { 追' (他, 华蓉), 华蓉 }”が「彼が華蓉を振り向かせようとする事が華蓉にさせた」の意を、“得'”関数の値である“得' [追' (他, 华蓉), 华蓉, 令' { 追' (他, 华蓉), 华蓉, 生' (华蓉, 好感) }]”が「彼が華蓉を振り向かせようとする事が、華蓉に、彼が華蓉を振り向かせようとする事が華蓉に華蓉が好感を持つことを（させる）ことを、させた」という意味を表している。

12. 由于天天下饭店，为期十天的代表大会开得令各地代表消化不良。
(作例)

(代表大会が開かれていた十日間、毎日レストランで食事を摂っていたため、各地の代表に消化不良を起させた。)(筆者訳)

12 の文の「使役」と直接関わる部分を取り出すと、次の 12-1 になる。

12-1. 大会开得令代表消化不良。

[大会は代表に消化不良を起させた (ほど開かれていた)。]

文 12-1 では、「V」は単音節の動詞“开”であり、「V 得」の後に“令”が用いられている。

文 12-1 は「誰かが大会を開く」と「代表が消化不良を起す」と「誰かが大会を開くことが、代表に、代表が消化不良を起すことを (させる)」と「誰かが大会を開くことが代表にさせた」と「誰かが大会を開くことが、代表に、誰かが大会を開くことが代表に代表が消化不良を起すことを (させる) ことを、させた」という五個の命題内容を含んでいる。丸括弧内の「させる」は“令”の意味を表している。従って文 12-1 の述語論理表記は次のようになる。

12-1' 得' [开' (Φ^8), 大会), 代表, 令' {开 (Φ , 大会), 代表, 消化不良' (代表) }]

		サセル'	～ガ	～ニ	～コトヲ
サセル'	～ガ	～ニ			～コトヲ

ここで“开' (Φ , 大会)”が「誰かが大会を開く」の意を、“消化不良' (代表)”が「代表が消化不良を起す」の意を、“令' {开' (Φ , 大会), 代表, 消化不良' (代表) }”が「誰かが大会を開くことが、代表に、代表が消化不良を起すことを (させる)」の意を、“得' {开' (Φ , 大会), 代表”が「誰かが大会を開くことが代表にさせた」の意を、“得' ”関数の値である“得' [开' (Φ^1), 大会), 代表, 令' {开 (Φ , 大会), 代表, 消化不良' (代表) }]”が「誰かが大会を開くことが、代表に、誰かが大会を開くことが代表に代表が消化不良を起すことを (させる) ことを、させた」という意味を表している。

以上文 11 から文 12 まで「V」が単音節の動詞であり、「V 得」の後に「使」

(など)が現われる「Vd 得構文」を論じた。次に「V」が二音節の動詞であり、「V 得」の後に「使」(など)が現われる「Vd 得構文」を一つ見てみよう。

13. 据说润表妹随车跟他们来医院的路上镇定得令他们惊奇。(周红 2005:337 引用例)

(従妹の潤は彼らについて病院に来る途中、彼らを驚かせるほど落ち着いていたそうだ。)(筆者訳)

13の文の「使役」の分析に不用な部分を取り除くと、次のようになる。

13-1. 表妹镇定得令他们惊奇。

(従妹は彼らを驚かせるほど落ち着いていた。)

文13-1では、「V」は二音節の動詞“镇定”であり、「V得」の後に“令”が用いられている。

文13-1は「従妹が落ち着いている」と「彼らが驚く」と「従妹が落ち着いていることが、彼らに、彼らが驚くことを(させる)」と「従妹が落ち着いていることが彼らにさせた」と「従妹が落ち着いていることが、彼らに、従妹が落ち着いていることが彼らに彼らが驚くことを(させる)ことを、させた」という五個の命題内容を含んでいる。丸括弧内の「させる」は“令”の意味を表している。従って文13-1の述語論理表記は次のようになる。

13-1' 得' [镇定' (表妹), 他们, 令' {镇定' (表妹), 他们, 惊奇' (他们)}]

		サセル'	～ガ	～ニ	～コトラ
サセル'	～ガ	～ニ			～コトラ

ここでは“镇定' (表妹)”が「従妹が落ち着いている」の意を、“惊奇' (他们)”が「彼らが驚く」の意を、“得' {镇定' (表妹), 他们, 惊奇' (他们)}”

が「従妹が落ち着いていることが、彼らに、彼らが驚くことを（させる）」の意を、“得’ {鎮定’（表妹），他们”が「従妹は落ち着いていることが彼らにさせた」の意を、“得’”関数の値である“得’ [鎮定’（表妹），他们，令’ {鎮定’（表妹），他们，惊奇’（他们）}”が「従妹が落ち着いていることが、彼らに、従妹が落ち着いていることが彼らに彼らが驚くことを（させる）ことを、させた」という意味を表している。

5. 結びにかえて

以上「Va 得構文」、「Vb 得構文」、「Vc 得構文」、「Vd 得構文」について一通り考察を行った。考察のプロセスが示しているのは、筆者の提案している「V 得構文」を三個の項を持つ関数と見なし、「サセル’（～ガ ～ニ ～コトヲ）」という論理構造に基づいて「V 得構文」に意味解釈を与えることが妥当であることがわかる。また、本稿で論じた「Va 得構文」、「Vb 得構文」、「Vc 得構文」、「Vd 得構文」は「V 得構文」のプロトタイプと考えられるから、本稿はプロトタイプの「V 得構文」が三つの項を持つ関数であり、「サセル’（～ガ ～ニ ～コトヲ）」という論理構造に基づいて意味解釈を与えられることを証明していると言える。

注釈

- 1) 李臨定（1986：242）は“她哭得手帕湿了”のような「V 得構文」と“她哭湿了手帕”とが「どちらも“何々させる”の意味を持つ」と言っている。筆者は両者が根本的に違うと考えている。なぜなら、“她哭湿了手帕”が文の意味の「単一的把握」であるのに対して、“她哭得手帕湿了”は文の意味の「分離的把握」であるから。以下“她哭湿了手帕”を文1とし、“她哭得手帕湿了”を文2として、詳しく説明してみよう。

文1は“她哭”と“手帕湿”の二つの出来事を含んでいる。ここで

の出来事“她哭”と出来事“手帕湿”は同時に起こっていて、どちらかが優先とは言えない関係にある。この関係は論理式によっても表される。文1を述語論理で記述すると、“哭’（她）& 湿’（手帕）”となる。ここで“哭’（她）”を事態1、“湿’（手帕）”を事態2と呼ぶと、論理式“哭’（她）& 湿’（手帕）”から事態1と事態2の二つの事態が同時に存在するが、それは連言の「&」で結びつけられているので、関数計算は合計二回で終わる。従って、二つの事態を同時に把握することが可能であり、これを「単一的把握」とする。

それと対照的に、文2がある。文2も“她哭”と“手帕湿”の二つの出来事を含んでいる。しかし、文1と異なるのは文2に含まれている“她哭”と“手帕湿”の二つの出来事は自然な継起的関係にあることである。文2に含まれている二つの出来事を捉える際には、二つの事態を同時にではなく、分離したものとして捉えなければならない。このことは論理式によっても表示される。文2の論理式を書き記すと、“De’ {哭’（她），手帕，湿’（手帕）}”になる。ここで上と同じく、“哭’（她）”を事態1、“湿’（手帕）”を事態2と呼ぶことにする。論理式“De’ {哭’（她），手帕，湿’（手帕）}”においては、使役関数であるDe’が成立するプロセスは、事態1と事態2がまず成立して、さらに、その二つが第一項と第三項になって使役関数De’を成立させるのである。これは事態1と事態2がDe’関数を介して分離的に捉えられていることを語っている。そこでこれを「分離的把握」とする。

- 2) 原文は次のように記している。「在“V得”后出现了汉语致使句的标记性词语“使”、“叫”、“让”、“令”等、使得“V得句”中深层蕴含的致使语意关系得到显化。」
- 3) 筆者の「現代中国語における使役構文の意味と論理構造 —その一「使構文」—」を参照されたい。
- 4) 另外,这两种句型都有“使得如何”的意思,无论是“哭红了眼睛”还是“哭得眼睛都红了”,都是表示:因哭而使得眼睛红起来的意思。(李临定《现代汉语句型》:242-243)

- 5) ここでは、「DE」が“得”を表し、「RANG」が“使”、“使得”、“致使”、“令”、“叫”、“让”の全体を表す。
- 6) 原作の「現代漢語致使範疇研究」では、周紅氏の考えが次のように述べられている。「“得”字致使句和“使”字致使句表现致使的隐现程度不同：“得”字句不如“使”字句明显、它可以补出“使、令、叫、让”等致使标志。」
- 7) 「単一化」については稿を改めて論じることとする。
- 8) 「誰か」を表す述語論理記号である。文 12-1 においては大会を開く「誰か」ははっきり指示する人称詞が現われていないため、論理式において記号「Φ」を用いて記述する。

参考文献

- 陳嘉映、2006、『語言哲学』、北京大学出版社
- 丁恒順、1989、「“N1+V 得 +N2+VP” 句式」、『中国語文』、第三期
- 范曉、1992、「V 得句的“得”後成分」、『漢語學習』、第六期
- 范曉、1993、「復動 V 得句」、『語言教学与研究』、第四期
- 范曉、2001、「動詞的配価和漢語的把字句」、『中国語文』、第四期
- 范曉・張豫峰、2001、「“V 得”後主謂結構的語義分析」、『中国学研究』、第四期
- 方立、1997、『数理語言学』、北京語言文化大学出版社
- 方立、2000、『邏輯語義学』、北京語言文化大学出版社
- 傅雨賢、2006、『語法・方言探微』、広東高等教育出版社
- 高順全、2005、『對外漢語教学探新』、北京大学出版社
- 郭繼懋・王紅旗、2001、「粘合補語和組合補語表達差異的認知分析」、『世界漢語教学』、第二期
- 郡司隆男、1987、『自然言語の文法理論』、産業図書
- 何英玉、2005、『語義学』、上海外語教育出版社
- 賈彦德、2005、『漢語語義学』、北京大学出版社

- 蔣巖・潘海華、1998、『形式語義学引論』、中国社会科学出版社
- 金允経、1998、「關於現代漢語被動句的感情色彩」、『語言研究的新思路』、上海教育出版社
- 木村英樹、2000、「中国語ヴォイスの構造化とカテゴリ化」、『中国語学』、No.247
- カール・ポラード、アイバン・A・サグ、1994、『制約に基づく統語論と意味論 —— HPSG 入門』（郡司隆男訳）、産業図書
- 李臨定、1963、「帶“得”字的補語句」、『中国語文』、第五期
- 李臨定、1980、「動補格句式」、『中国語文』、第二期
- 李臨定、1986、『現代漢語句型』、商務印書館
- 李臨定、1988、『漢語比較変換語法』、中国社会科学出版社
- 呂叔湘、1996、『現代漢語八百詞』、北京商務印書館
- 野矢茂樹、2006、『ウィトゲンシュタイン 「論理哲学論考」を読む』、筑摩書房
- オールウド、アンデソン、ダール、1994、『日常言語の論理学』（公平珠躬、野家啓一訳）、産業図書
- 白井賢一郎、1985、『形式意味論入門—言語・論理・認知の世界—』、産業図書
- 杉本孝司、1998、『意味論1——形式意味論』、くろしお出版
- ウィトゲンシュタイン、2005、『論理哲学論考』（野矢茂樹訳）、岩波書店
- 宛新政、2005、『現代漢語致使句研究』、浙江大学出版社
- 楊平、1989、「“動詞+得+賓語”結構的產生和發展」、『中国語文』、第二期
- 張猶峰、2000、「“得”字句研究評述」、『漢語學習』、第二期